

# 佐保小学校と鼓阪小学校 統合に伴う新校舎建設工事について



# 新校舎建設工事について

令和6年9月定例会において、鼓阪小学校と佐保小学校を統合再編し新校舎を建設する予算としての佐保小学校校舎建設事業債務負担行為63億3,850万円については、否決となりました。

しかし、鼓阪小学校は令和9年度には複式学級となる見込みであることや、現在の佐保小学校の状況など、早急に教育環境を整える必要があります。

今定例会では、前回の議会での指摘を踏まえ、提案内容を見直し、再度提案いたします。

## 提案にあたっての主な内容

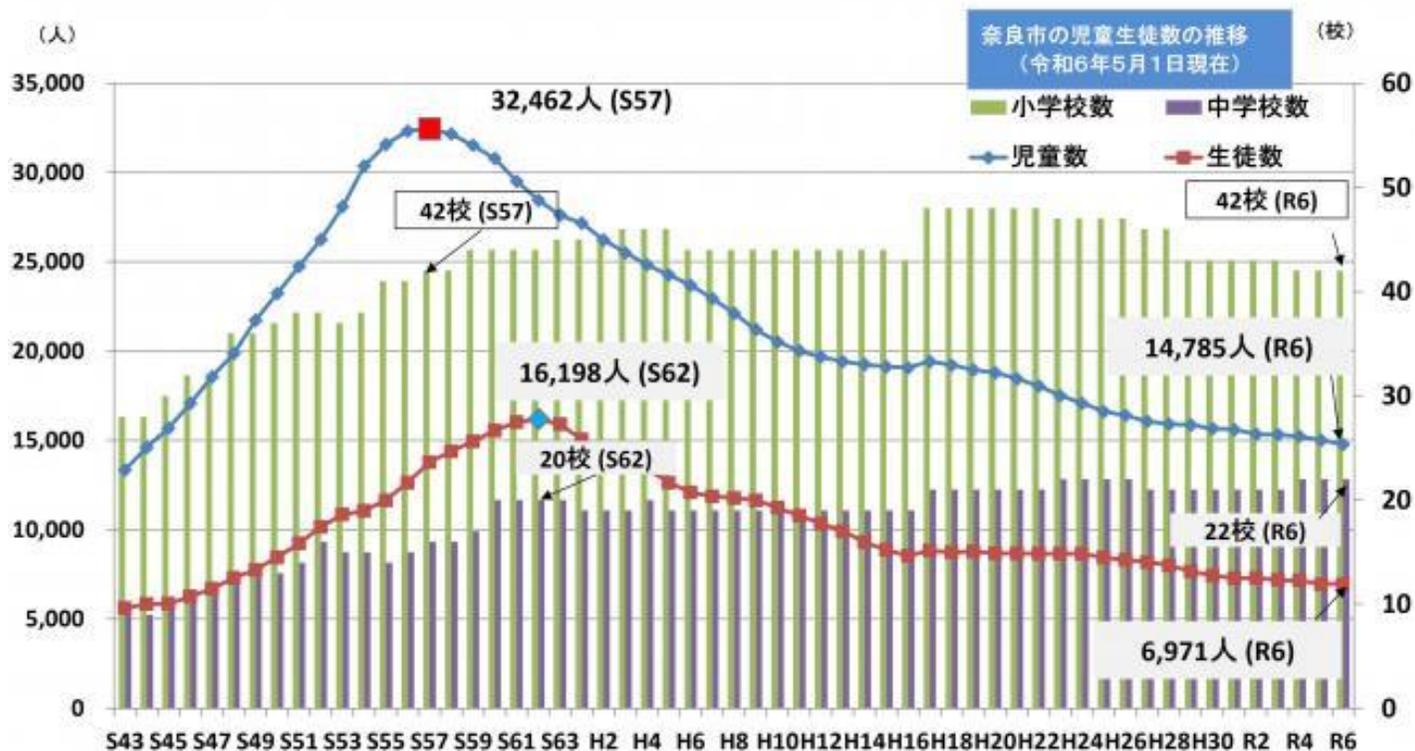
- ① 工事費の見直し
- ② 新校舎建設スケジュールの見直し
- ③ より競争性の高い発注方式の見直し
- ④ 佐保小学校グラウンドの使用範囲の拡大

# 1. 学校規模適正化

全国的に少子化が進んでいる中で奈良市の児童生徒数は1980年代のピーク時から現在は半数以下に減少しています。そして今後も減少傾向が続くと想定されます。

一方で、学校数はあまり変化がないため、集団を通した教育が困難になる等、教育的効果を十分にあげられない状況が生じています。

児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという学校の特質を踏まえ、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えられます。子どもたちがより良い教育環境の中で効果的な教育が受けられるように、学校規模の適正化を図ることが必要です。



## 2. 鼓阪小学校における少子化の現状

### 令和9年度には、複式学級が予測されます。

鼓阪小学校の令和6年5月1日時点の児童数は74人で、5年生は7人となっています。

推計では、3年後の令和9年には児童数が55人となり、2年生と3年生の児童数の合計が13人となる見込みで2年生と3年生で1クラスを1人の担任が受け持ち授業を行う複式学級が生じる可能性があります。

年度	1年		2年		3年		4年		5年		6年		特支学級	合計	
	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	人数	学級数
令和6	11	1	11	1	10	1	15	1	7	1	17	1	3	74	6
7	7	1	11	1	11	1	10	1	15	1	7	1	3	64	6
8	6	1	7	1	11	1	11	1	10	1	15	1	3	63	6
9	7	1	<b>6</b>	1	<b>7</b>	0	11	1	11	1	10	1	3	55	5
10	9	1	7	1	<b>6</b>	1	<b>7</b>	0	11	1	11	1	4	55	5
11	7	1	9	1	7	1	<b>6</b>	1	<b>7</b>	0	11	1	4	51	5

推計値は令和6年5月1日現在の住民基本台帳による学級数は特別支援学級を除く。

# 3. これからの教育と学校施設に求められるもの

新校舎の建設には、これからの学びの方向性を実現するために必要なコンセプトを設定しました。さらに、そのコンセプトを学校現場でどのように実行するかについて検討しました。

## 【新しい校舎のコンセプト】

①「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、柔軟で創造的な学習空間を実現する。」

- 多様な学習活動が展開できる空間
- 読書・学習・情報のセンター機能
- 学校の働き方改革を推進する執務空間



1人1台端末環境等に対応したゆとりのある教室の整備



多目的スペースの活用による多様な学習活動への柔軟な対応



学校図書館とコンピュータ教室を組み合わせ、読書・学習・情報のセンターとなる「ラーニング・commons」として活用



地域コミュニティの拠点として、地域や社会の人たちと連携・協働し、ともに創造的な活動が展開できる共創空間として活用



②「新しい生活様式を踏まえ、健やかな学習・生活空間を実現する。」

- 快適で温かみのある学習・生活空間
- 健やかで衛生的な環境

③「地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を実現する。」

- 学校と地域が支え合い協働していくための共創空間

④「子供たちの生命を守り抜く、安全・安心な教育環境を実現する。」

- 子どもたちが安全・安心に過ごせる学校施設
- 避難所としての防災機能を強化した屋内運動場

⑤「脱炭素社会の実現に貢献する、持続可能な教育環境を実現する。」

- 脱炭素社会の実現を目指した学校施設

## 【これからの学びの方向性】

子ども主体の

探究的な学び

- ・異学年協働
- ・教科横断
- ・STEAM学習
- ・自由進度

誰一人取り残さない  
多様な学び

- ・校内フリースクール
- ・通級指導教室



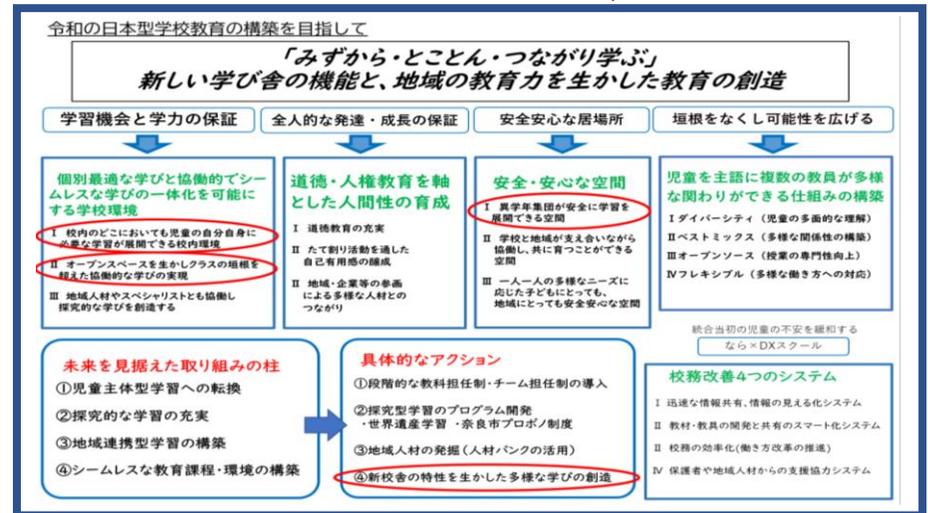
地域と共に深める学び

- 本物との出会い
- ・地域人材の活用
- ・専門家の授業参画
- ・直接体験

新しい学校のグランド  
デザインに落とし込む



ICTをフル活用した  
ネイティブクラウドの学び



# 4.これまでの地域との協議

地域住民や保護者と奈良市教育委員会は、令和4年7月以降、「保護者説明会」、「開校に向けた協議会」、「PTA・連合会等役員への説明」など計28回意見交換を実施し、その他個別の要望等に対しても時間をかけ、何度も話し合いを行ってきました。

日時		主な内容
令和4年7月4日 鼓阪小学校PTA役員	・PTA役員(9人参加)	・若草中学校区の現状 ・学校規模適正化について
令和4年7月12日 佐保小学校PTA役員	・PTA役員(7人参加)	
令和4年7月21日 鼓阪自治連合会役員	・連合会役員(9人参加)	
令和4年7月24日 佐保自治連合会役員	・連合会役員(12人参加)	
令和4年9月6日 鼓阪北小学校PTA役員	・PTA役員(13人参加)	
令和4年10月14日 鼓阪地区団体役員	・連合会、少年指導協議会、民生児童委員協議会、同窓会、PTAの役員(12人参加)	・学校規模適正化について ・若草中学校区の現状について ・教育委員会の方針について ・統合による教育的効果について ・これからの教育について ・学校規模適正化事例について ・今後のスケジュールについて
令和4年11月19日 佐保地区団体役員	・連合会、自主防災防犯協議会、PTAの役員(6人参加)	
令和5年1月22日 鼓阪地区自治会役員	・自治会長(25人参加)	
令和5年1月25日 鼓阪説明会	・鼓阪小学校区保護者(17人参加) ・鼓阪小学校区の未就学児の保護者(5人参加)	
令和5年1月27日 佐保説明会	・佐保小学校区保護者(16人参加) ・佐保小学校区の未就学児の保護者(13人参加)	
令和5年2月25日 鼓阪説明会	・鼓阪小学校区保護者(会場参加:10人) ※オンライン参加:9人	・通学路の安全対策について
令和5年4月15日 鼓阪説明会	・鼓阪地区にお住まいの方(50人参加)	・学校規模適正化について ・通学路の安全対策について

日時		主な内容
令和5年4月22日 佐保説明会	・佐保地区にお住まいの方(44人参加)	・学校規模適正化について ・通学路の安全対策について
令和5年9月1日 佐保説明会	・佐保小学校保護者(保護者以外含む20人参加)	・通学路の安全対策について ・新校舎の建設について
令和5年9月2日 鼓阪説明会	・鼓阪小学校保護者(保護者以外含む16人参加)	
令和5年9月10日 佐保協議会	・地域代表 佐保地区自治連合会長 ほか18人 ・学校代表 佐保小学校長 佐保小学校教頭	・検討協議会設置要綱の承認について ・会長、副会長及び幹事の選任について
令和5年10月15日 佐保協議会	・委員16人 事務局2人	・新校舎の基本設計の進捗状況について ・これまでの経緯について ・検討課題案について ・一条通り現況調査結果について
令和6年2月17日 佐保協議会	・委員11人 事務局2人	・実施設計等、今後のスケジュールについて ・通学路の安全対策について
令和6年2月17日 鼓阪協議会	・地域代表 鼓阪地区自治連合会長 ほか10人 ・学校代表 鼓阪小学校長 鼓阪小学校教頭	・検討協議会設置要綱の承認について ・会長、副会長及び幹事の選任
令和6年3月27日 鼓阪協議会	・委員9人 事務局2人	・学校選択制について ・スクールバスの運行について ・地域活性化案について ・通学路の安全対策について
令和6年4月20日 佐保協議会	・委員17人 事務局2人	・発掘調査等、今後のスケジュールについて ・通学路の安全対策について ・スクールバスの運行について
令和6年4月25日 鼓阪協議会	・委員10人 事務局2人	・地域活性化案について ・学校規模適正化について
令和6年5月14日 鼓阪小学校PTA役員	・PTA役員6人	・通学路の安全対策について ・スクールバスの運行について
令和6年7月31日 鼓阪協議会	・委員10人	・通学路の安全対策について ・スクールバスの運行について
令和6年8月24日 開校準備委員会	・委員24人 事務局5人	・新小学校開校に向けた準備について
令和6年10月19日 開校準備委員会	・委員21人 事務局10人	・新校舎建設工事の入札不調について ・統合再編について
令和6年10月22日 佐保説明会	・佐保小学校保護者、佐保地区にお住まいの方、教員等(計48人参加)	・新校舎建設工事の入札不調について ・統合再編について
令和6年10月23日 鼓阪説明会	・鼓阪小学校保護者、鼓阪地区にお住まいの方等(計49人参加)	

# 5. 保護者・地域からの意見とその対応

統合再編の方針について	対応
●子どもの人数が少なくなると廃校にするという方針なのか。	○開校時期を令和9年度とし、鼓阪小学校と佐保小学校の統合再編を行います。
●校区の見直しなど、統合再編以外の手法をとらないのか。	○小学校の跡地活用を含む鼓阪地域の活性化については、地域と共に取り組んでいきます。
●統合ありきで進んでいるが、地域、保護者の声を聞いて統合をやめることはないのか。	
●地域活性化案を実行せずになぜ統合再編するのか。	
●令和8年4月の開校スケジュールについて変更はあるのか。校舎の完成と合わせて統合再編するのがベストではないか。	
(地域の意見) 市街地での複式学級は子どもたちのためであってはならない。旧市街地での統合再編のモデルとなると考えている。	
通学について	対応
●鼓阪小学校校区から佐保小学校までの通学路はかなり危険度が高いと感じる。距離だけでなく危険性も考慮してスクールバスの運行を積極的に検討してほしい。	○通学距離が概ね2km以上の児童を対象にスクールバスの運行を行います。
●グリーンベルトだけで安全面が担保されるのか。	○統合後の通学路を設定し、通学路安全プログラムを実施しました。両地域の保護者・地域住民と共に危険箇所を確認し、対策を講じています。
●通学距離が長くなると熱中症が心配である。	
(地域の意見) 通学路の見守りについて、一方的に行政に負担してもらうことは考えていない。地域の見守り活動の内容を将来に向けて見直す必要があると考えている。地域にある様々な団体が協力して通学路の安全確保について活動していきたい。	
校舎建設について	対応
●敷地の南側に校舎を建設しないでほしい。	○工事中のグラウンド使用などの児童への影響を考慮し、校舎建設場所を敷地の東側に決定しました。
●工事中もグラウンドが使えるよう工事工程、校舎建設場所を工夫してほしい。	
●新校舎建設工事が遅れていると思うが、工事再開までの間子どもたちにグラウンドを広く使わせてあげたい。	○工事中使用が制限されているグラウンドについては、使用範囲を広げ使用できるよう早急に取り組みます。
(地域の意見) 子ども達も新しい校舎をものすごく楽しみにしている。なんとか実現に向けて動いていただきたい。	

# 6.9月定例会での意見とその対応

スケジュールに対する意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体のスケジュール感を市長部局と教育委員会で共有しておくべきであった。議会で様々な問題課題が指摘されているにもかかわらず、開校を急ぐ必要がどこにあるのかというのが一番の疑問である。</li> </ul>	<p>➡ 「10.校舎建設スケジュール」P13</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●工事完成が遅れるのであれば、佐保、鼓阪両方の保護者と、子どもたちにきちんと説明して、納得していただいた上で、開校時期も決めるべき。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●なぜ令和8年4月の統合校の開校にこだわるのか。仮に統合するにしても両校で交流を重ねながら、新校舎が立ち上がって、しかるべきタイミングで開校するというのが本来の形ではないのか。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●私たちが会派は、佐保小学校校舎の建設事業には賛成している。事業設計を見直し、最小の経費で最大の効果を上げるという、行財政の基本に立ち返り、事業費の縮減を図るとともに、新校舎の供用開始時期を見直し、児童の安全を第一に考えた建設事業が進むよう、工期についても見直すことを強く求める。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●スケジュールありきで進めると、どこかにひずみが出てくると思う。スケジュールありきじゃないとの説明であるが、そう見えてしまう。今後、しっかりと制度設計し事業を進めていただきたい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●新校舎の供用開始時期を見直すとともに、安全に建設事業が進むよう工事内容についても見直すこと。</li> </ul>	

工事費に対する意見	対応
<ul style="list-style-type: none"> <li>●補正予算が必要になったのは、基本設計から算出された当初予算の51億円の見積りの精度が低くて、実際の価格と大きな乖離が発生したと考えるのが妥当ではないかと思う。近年の物価高騰を考慮すると、基本設計から概算工事費を算出し予算決定するのではなく、より精度の高い実施設計から工事費を算出すべきであった。</li> </ul>	<p>➡「8.工事費の見直し」P11 「9.工事費の見直しの内容」P12</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●本会議及び特別委員会での審議を経て、基本設計をもととした予算要求の甘さと、実施設計の納期の遅れにより、正確な工事価格の精査が行われず、結果として入札不調の事態を招いたことが明らかになった。これは、令和8年4月の開校を急ぐあまり、無理な工程計画になっていたことが問題の根底である。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●結果を見ると、当初の債務負担行為設定や工事入札価格の積算において、昨今の物価上昇リスクを適切に反映できていなかったと判断せざるをえない。工事総額が今後どこまで膨張するのか。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●収入も限られているので、どこかで支出を抑えていく部分も必要で、計画も変えていく必要もあると思う。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●新たな事態を受け、佐保小学校の校舎建設は事業設計を見直し、事業費の縮減を図ること。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業設計を見直し、事業費の縮減を図って佐保小学校の校舎建設は遂行すること。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●経営事項審査点数の見直しや分離発注などの方法を検討すべき。税金を使うことになるので、経費節減のためのあらゆる努力をしてから議案提案すべき。</li> </ul>	<p>➡経営事項審査点数を1500点➡1400点とし、単独事業者も可能とします。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●主務課の人員体制を強化すること。</li> </ul>	<p>➡技術職については、人材確保が難しい現状ですが、各職場の業務を円滑に遂行するため、専門職員の持つ専門性を生かした適正な人員配置に努めます。</p>

# 6. 9月定例会での意見とその対応

ガイドラインや計画に対する意見	対応
● 佐保小学校は今後のモデルになるので、学校建て替えのガイドラインを、地域の皆様にも含めて示す必要がある。	➡「3.これからの教育と学校施設に求められるもの」P4
● 学校間格差が起こらないように、市立学校標準校舎費用を早期に策定し、今後の工事校舎整備に備え、また同時に、現在のレートでの財政シミュレーションも示していただきたい。	
● 学校施設長寿命化実施計画が策定されていないが、学校施設の基本的機能としてのあり方については、費用面も含めた全体計画を明らかにして、議会でも議論を行い共有されていくことが前提なのに、なし崩しになっている。	➡現在のところ早急に建て替えが必要な学校はありません。
説明責任に対する意見	対応
● 統合には、根深い行政不信が入ったり、肝心の当事者である保護者の理解が得られていない。市が何を考えているのか、当事者や地域には全く伝わっていない。地域に亀裂や分断が生じている。市長が説明する場を設けるべき。	
● 学校施設整備の全体計画を先に示し、理解を得て具体的に進めていくべき。	
● なぜ令和8年4月開校にこだわっているのかわからないが、より丁寧な地元との話し合いをお願いする。	➡令和9年4月の開校に向けて、引き続き、丁寧な説明に努めていきます。また、開校後も、通学路の安全対策やスクールバスの運行等について、保護者や地域とともにしっかりと対応します。
● できる限り速やかな情報提供をPTA、地域住民、議会に行い、説明を尽くすよう強く求める。	
● 佐保小学校及び鼓阪小学校のPTAや地域住民等を対象に全校説明会を開催して、今定例会で明らかとなった建設事業費の高騰や設計書の精査の問題、工期のひっ迫等の現状について市執行部の責任を明らかにして説明すること。	
統合に対する意見	
● 佐保小学校の建設には反対しない。我々が望むのは安全で安心して工事が進められるようにすること、財政が厳しい中でも、最小の経費で最大の効果が出るような、すばらしい仕事をすることであり、大人である執行部が考えるべきである。	
● 老朽化した佐保小学校の校舎建設は、事業設計を見直して、事業費の縮減を図ってやり切ることが必要だが、鼓阪小との統合は、佐保小改修とは切り離して進めるという事業の見直しが必要ではないか。	➡老朽化のみならず、統合再編を見据え、国の補助金や交付税措置など財源についても計画を立て、新校舎の建設を進めています。 鼓阪小学校の児童数は今後も減少していく状況から、一日も早く、統合再編を実施し、これからの奈良市のモデルとなる新しい校舎で過ごしてもらえるよう取り組んでいきます。
● 佐保小学校の建設は鼓阪小の統廃合とは切り離して進めること。より良い教育環境の整備、教育の質の担保については、統合再編の手法だけではない。小規模校の存在を認め、位置づけること。	
● 新たな事態にあることを鑑み、統廃合とするか否かの基本スタンスについて両校のPTA、地域住民の理解を得て事業設計を進めること。	

# 7. 建設資材高騰・労務費の上昇等の現状

世界的な原材料及び原油等エネルギーの品不足や価格高騰・円安の影響を受けて、建設工事の資材価格なども高騰し、現在も建設資材物価は、上昇を続けています。

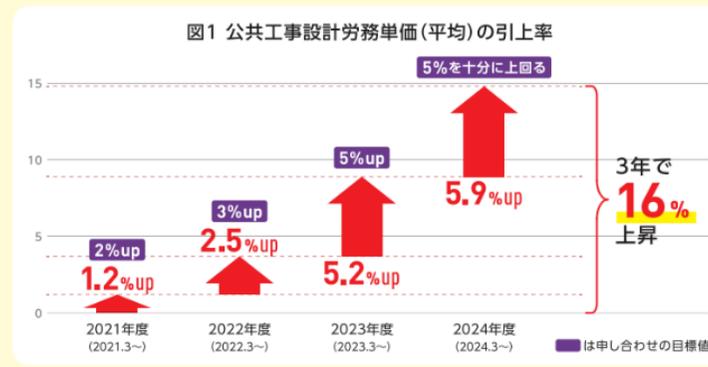
政府の賃上げの方針や労務単価の引き上げなどを受けて、建設現場で働く建設技能労働者の賃金も上昇し、年々引き上げ率は大きくなっています。

建設資材物価は、2021年1月と比較して33%上昇しています。(一財)建設物価調査会の推計



材料費割合を50~60%と仮定すると、この44か月で、資材等高騰の影響により**全建設コスト(平均)は、16~20%上昇**

- 建設技能者の賃金相当として積算される「**公共工事設計労務単価**(全国の労働市場の実勢価格を基に毎年政府において決定)は**2020年度に比べ、現在、16%引上げ**られています。(図1参照)
- 国土交通大臣と日建連を含む建設関係4団体(元請会社の団体・下請会社の団体)は、2021年度から毎年行っている賃金上昇の申し合わせにて、**2024年度は前年度比5%を十分に上回る上昇が目標**とされ、当会は、国土交通省から、その実現に向けた御指導をいただいています。  
注)申し合わせは、技能労働者の賃金計算の基準(日給等)につき行われています。



労務費割合を30%と仮定すると、この37か月で、労務費上昇の影響により**全建設コストは、4.8%上昇**

# 8. 工事費の見直し

これからの教育と学校に必要となる、新しい校舎のコンセプトは守りながら  
 教育への影響を与えない部分を見直すことにより、**2億6,600万円削減**しました。

(単位:千円)

令和6年度		当初予算 A	9月 補正予算 B	12月 補正予算 C		変更額 C-B
新校舎		4,200,000	5,602,000	5,342,000		△260,000
(内訳)	建築	3,277,000	3,972,000	3,929,570		△42,430
	電気	373,000	726,000	547,240		△178,760
	機械設備	550,000	904,000	865,190		△38,810
	体育倉庫・外構	364,000	340,000	332,000		△8,000
	プール	186,000	0	0		0
	解体A	294,000	326,000	328,000		2,000
	工事管理委託	70,500	70,500	70,500		0
計	債務負担行為	5,114,500	6,338,500	6,072,500		△266,000
財源	① 国庫補助金	909,770	291,959	291,959		
	起債	4,204,700	6,046,500	5,780,500		
	一般財源	30	41	41	計6,072,500	
	②起債内、交付税措置	1,954,758	2,723,225	2,603,575		
	市実質負担	2,249,972	3,323,316	3,176,966		

その他必要経費 (令和8年度)  
 プール・バンビーホーム等経費 500,000

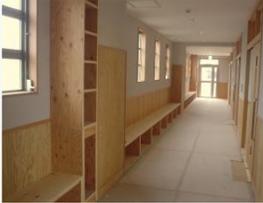
統合再編しない場合の校舎建設はこの、国庫補助金及び交付税措置は受けることができない。  

$$\textcircled{1}291,959 + \textcircled{2}2,603,575 = \underline{2,895,534}$$

# 9. 工事費の見直しの内容

空間を活用した校舎建設のコンセプトは守りつつ、質や安全性を保ちながら子どもたちの教育に直接影響を与えない部分を見直しました。

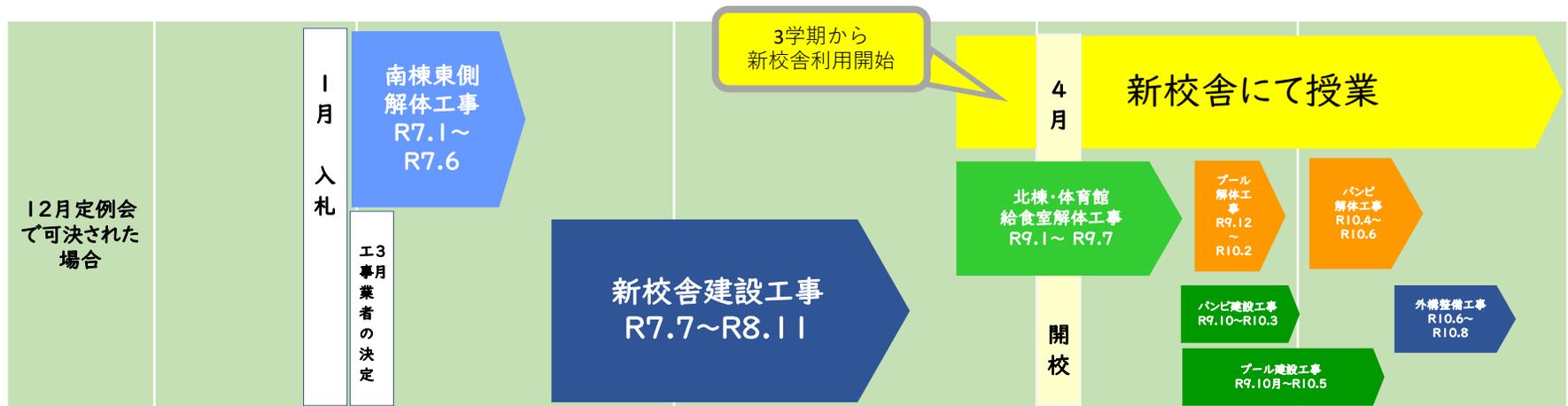
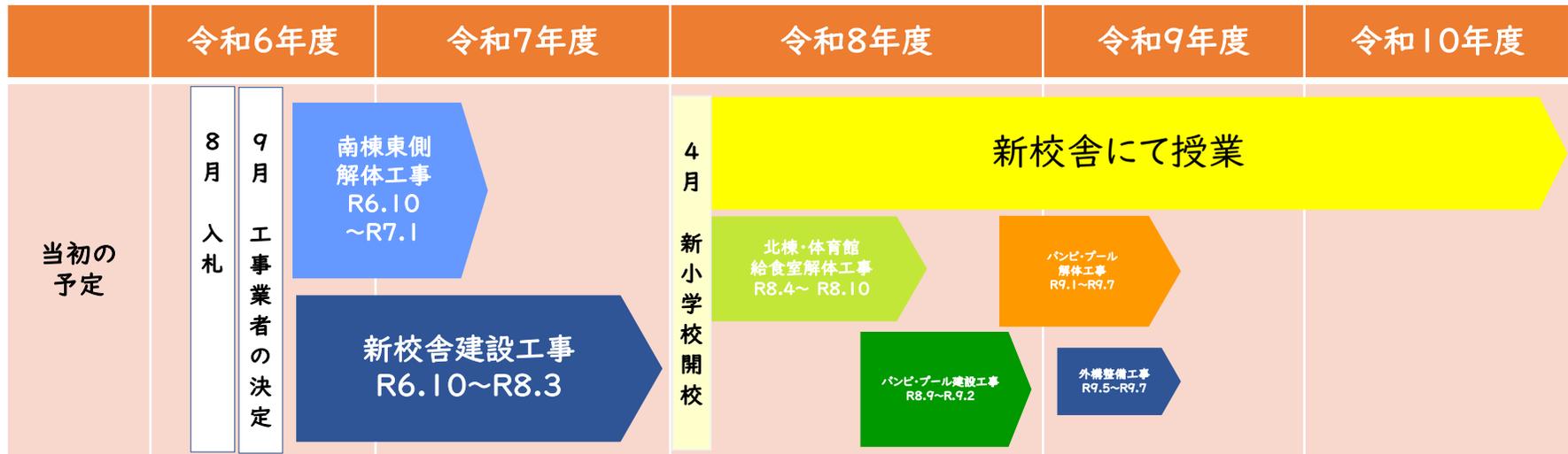
(単位:千円)

項目	削減額	増加額	内容
家具類の仕様 造り付けから既製品へ変更	△50,700		<p>学校建設の家具類は、基本造り付けで設置しているが安全性は確保しながら既製品に代替えることでコストを抑えた(書架やベンチなど)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="text-align: center;"> <p>造り付け家具のイメージ</p> </div> <div style="font-size: 2em;">➔</div> <div style="text-align: center;">  <p>安全対策を講じて既製品へ変更</p> </div> </div>
廊下等 空調設備の設置数の減	△44,600		教室と廊下をオープンで使用することも多く、教室の空調対応できる範囲で設置数を減少
内装仕上げ材の変更	△43,900		天井仕上げの変更及び展示間仕切りの取り止め
外構工事 一部取り止め	△6,700		新校舎西側の植栽 一部取り止め
階段室内の柱取り止め	△3,000		構造に影響のない柱の取り止め
ソーラーパネル、蓄電池の取り止め	△142,100		初期投資とメンテナンス費用を抑えるため、PPAでの設置を検討
建設物価の上昇		25,000	刊行物「月間 建設物価」等の 春号→秋号への単価入替による増額 等
	<b>△291,000</b>	<b>25,000</b>	

# 10. 新校舎建設スケジュール

新しい小学校の開校は、校舎完成後の**令和9年4月開校**とします。

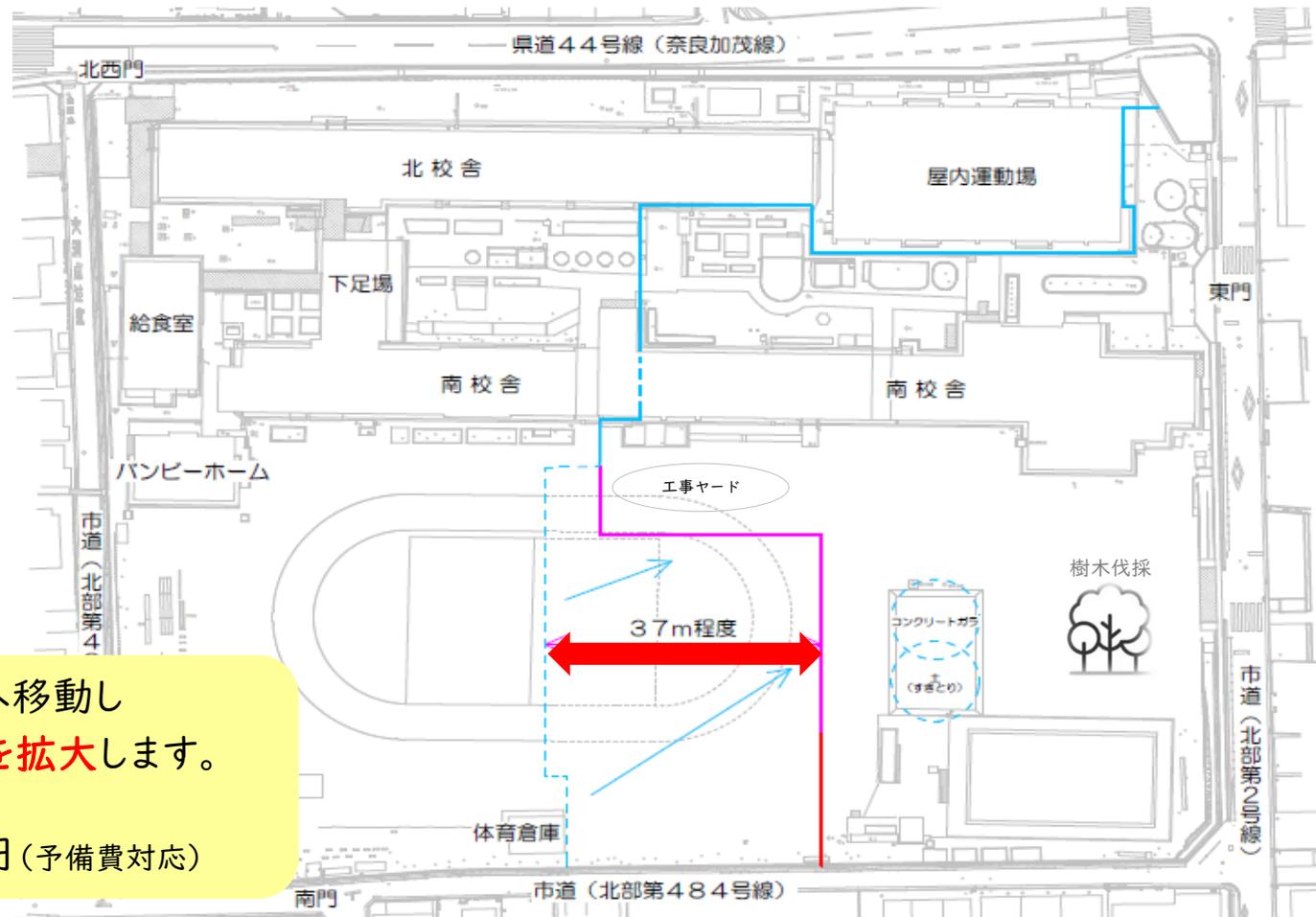
なお、令和8年11月校舎完成後、**3学期から佐保小学校の子どもたちは使用を予定**しています。



# 11. グラウンドの使用範囲の拡大

佐保小学校のグラウンドは、新校舎建設工事のため使用範囲を制限していますが、保護者の皆様から「もっと外で遊びたい」等の子どもたちの思いをお聞きしました。

新校舎建設工事が実施されるまでの間、1日も早く広いグラウンドで子どもたちが活動できるように3学期からの利用を目途とし、整備費は予備費で対応します。



現在の仮囲いを東へ移動し  
約37m使用範囲を拡大します。

予算額 3,630千円 (予備費対応)